

義太夫

芸術祭参加について

義太夫協会会長 田邊秀雄

義太夫協会会報
第43号

昭和63年9月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (541) 5471

義太夫協会は昭和六三年度の文化庁芸術祭に参加することになり、竹本朝重、鶴澤寛八による「鮎屋」、竹本駒之助、鶴澤重輝による「神崎揚屋」がとり上げられた。私はこの芸術祭に初期から永い間関係していたので、この協会に入った時から是非参加に持って行きたいと思っていたものである。昨年も一応その案を出したのだが、その時期が思わぬことで大変多忙であった為に翌年延ばしになっていた。そこに相談役の高野氏、池田氏などから励ましの言葉があって、急いで参加申し込みの締切に合わせたわけである。その出演者の選考に当たっては協会である以上年功序列で行くべきであるとか、もっと

多くの人を舞台に出すべきであるといった言葉も聞かれたが、それらは現在の芸術祭のことを知らないからで、私は今回はまことに適切であったと考えて居り、幸い参加も認められた。

芸術祭は戦後敗戦の荒漠とした日本で人々の心を癒そうと、新しく生まれた文部省社会教育局芸術課の課長今日出海の主唱によって行われたもので、参加公演は翌年から始まった。その趣旨は優れた芸能を奨励し広く国民にすゝめる為であるが、それからもう四十年になる。趣旨は変わらなくとも中味は時代によって変化して来たことは否めない。初期に於いては少なかった参加申し込みも次第に増

し、今ではその数は期間の日数を遙かに越えてしまうようになった。

参加は芸術祭に相応しいものである為に審査員による事前審査が行われる。しかし参加が多くなると期間中毎日のように演奏会が重なり、審査員が会場を廻って聴くことが不可能になる。特に音楽部門は邦洋が一緒なので尚更である。かち合う時は一方を下ろすか、時間の調整を行って掛け持ちをしなければならぬ。審査員も十月一杯かゝりきりである。従って今この事前審査はまことに狭き門で、団体の参加は個人の奨励にならぬとか、この人は叙勲やもっと上の賞にまわした方がよいなど、昔と変わってきた。特に若い世代に關心が持たれていることは否めない。

これらのことは来年からの参加の選考でもよく考えて見ねばならぬことである。それなら何故協会できり上げるのかと言うことになるかも知れないが、協会は義太夫節の振興普及を行う使命があり、それを出来るだけ陽の当たる場所でPRしなければならぬからである。受賞はオリンピックと同様に時の運である。審査員が優秀とか有意義だと認めるものが多くなれば辛くなるし、それに賞の数は決まっている。要はこれに参加することによって広く国民や行政の府に義太夫の存在と意義を知らしめることである。

私はこの四人が自己のベストを尽くしてくれ、ばそれで結構だと思っている。皆で暖かく応援しようではないか。

友情と徳義

今から八十年前、上野広小路(交通公社の所)に下谷銀行が有り、頭取の千沢(ちざわ)さんが父才造のご連中でした。切り通しの岩崎家の三太夫(家令)と千沢さんは懇意でした。其の三太夫が千沢さんに、あなたは太夫義太夫がお上手だそうですが、邸の忘年会にお語りになりませんかと誘われ、大喜びで父の親友の鶴澤豊吉さんに三味線を頼みましたが、「才造が思つて居るのに其のご連中を弾く様な不徳義な事は出来ません」と断りました。千沢さんは困つて父に相談に來ました。父は手紙を書いて私に豊吉おじさんの家へ届けさせました。おじさんはすぐに返事を書いて下さいました。

愈々当日、二十六日に三味線を持って門口から声をかけて「才造、ほんならいてくるで」「大義やナ、頼むで」おじさんは元氣よく出て行きました。そして夕方戻つて来て、「今日はえらい賑やかな会でな。初めが海老一・海老蔵の獅子舞と籠まり。次が千沢さんの御殿や。お前が弾いたらもうとうまく語れたと思つたが、ママママよかった。次は断家の小三治(名人三代目小さん)、若いけどうまい

相談役 豊澤猿三郎

人や。二人の碁氣違いが指し手に困つて居る時、入つてきた泥棒が碁氣違いで教えるという「碁泥」という話、とてもオモロカッタ。次は富士松加々太夫・吾妻路宮古太夫の新内『赤坂並木』や。明るくて派手で、客の呼べる芸や。次は立花家橘之助で達者なもんや。

『たぬき』という曲で、三味線で狸の腹太鼓の音さすね、驚いたうまさや。次は松井源水の独楽廻しや。色々やつて最後に大きなコマに糸を巻き乍ら、比のコマは時々お客さんの中心へとび込んで、エライ大怪我させます。今日あたりは怪我人が出そうに思いますと冗談いいながらコマを廻すと、お客さんの頭スレスレにとんで、突当りの襖に穴あけると思ふたらひとりで戻つて来て、源水の抜いた刀に乗るね。そして鏝元から刃先へ走りをるね。たいしたものや。次は天勝の手妻(奇術)や。キラキラ光る洋服着て、えらい人のかぶるシャッポン(シルクハット)かぶつて居るね。沢山の西洋カルタ(トランプ)を掌で返す度、大さう成つたり小さう成つたり。仕舞にはシャッポンの中から美しい旗がぎょうさん出て、最後シャッポンから兎が出をるね。

驚いた事ばかりや。終つてお庭へ出ると寿司やしるこや関東煮(おでん)や天ぷらや西洋料理の玉子焼き(オムレツ)など大変な事や。わしや、お前に食べさせたい思つて三太夫さんに頼んで大きいの作つてもらた。一つ喰うて見や、どや、うまいやろ。よかったナ」おじさんはも一ツの折をわたしらの方へ出し、「お前方、三人で食べいよ」私は子供の時から愚かなので嬉しく成りましたが、姉は私と違つて利口なので「あたいはいいから、おっ母さんに上げて下さい」。姉は食事の時に母と一緒に食べないであとで台所でおはちを洗う時、残ったごはんを水と一緒にたべてたのを知つて居たのです。尤も母がご近所の針仕事や洗濯で、病氣の父や子供の腹をみたすのは大変だったのでしょう。夜中に目がさめても、母の寝姿は見た事ありません。いつも針仕事をして居ました。おじさんは「そやな。お母さんに食べさせい。お前らに、おじがあしたよい物持つて来るわ」といつて父に「あす来るさかい、元氣でナ」と帰つて行きました。母はおじさんの敷いていた布団を片付けましたら、下から今日岩崎家から載いたお金が包みのまま入つて居りました。母は無言で父に渡しました。父はこぼれる涙を拭きもせず押し載いて、「豊吉、助かる。大切に使わして貰うで。」せき入る父の背中をさする母の肩もゆれて居ました。翌日昼過ぎ、おじさんのところのおばさんがとんで来て、おじさんの急死を知らせに來ました。父は裸足でおばさんの後を追いまし

たが、力尽きてメガネ橋(万世橋)のところ
で倒れました。前の警察からお巡りさんが来
て下さって、姉からの話を聞いて、親切にお
じさんの家へおぶって行ってくれました。父
は口がきけません。何も言わずに仏の手を朝
迄握って居ました。出棺の時、一人じゃ淋し
いから、わしも直に行くで、待って呉れ。
此の日を境に父はどっと病があらたまり、六
月一日おじさんの後を追いました。

思えば父とおじさんは、同じ天満に生れ、
同じ寺子屋で習い、三十五年、私が四才の時
上京、偶然に神田(文京区)に住居。父の本
名が豊吉、おじさんの芸名が之も偶然豊吉。
寺も同じ浅草。父もおじさんも兄弟無く、余
りにも因縁深いと存じます。

私、永生きのお蔭で、本年父の八十回忌、
母の五十三回忌、おじさんの八十一回忌と、
妙な年数ですが法要させて頂きました。今回
は誠に自分事でご退屈様でございました。

賛助会員・岡本靖彦様、前号鶴澤一二師が
宮家から賜った謝礼に就き御親切なお教授を
頂き有難うございます。慌て者の二三竜さん
と数学音痴の私でつい間違えました。

岡本様は先祖からの古美術鑑定のお家で、
今でも疋をご使用の由、誠によい事と存じま
す。岡本様のお訓えは、編集部が全文掲載し
てくれましたので、皆様もご参考になさって
下さい。またお気付きの事はご注意下さい。
電話は(七二三)六九六二番でございます。

猿三郎師芸談の

貨幣単位について

岡本 靖彦

猿三郎師の芸談毎号おもしろく拝読してい
ますが、42号の「廓断」の宮家の謝礼につき
編集部・注に誤りがありますので一言申し上
げます。同注に「一疋はお金の単位で二十五
文」とありますがこれは「一疋十文」の誤り
です。

江戸時代の通貨は金銀銭三貨通用で中々複
雑なのですが、一疋を十文としますと百疋が
一貫文(千文)となります。これを当時四貫
文で金一両というのが標準相場でしたから、
百疋は一両の十で一步ということになります。
明治になって貨幣価値に関係なく一両＝一円
としてしまいましたから十の百疋は二十五銭
となった訳です。ですからお話の中の二円五
十銭が本当なら、表書は金千疋とあったので
はないでしょうか。大正十三年あたりでは千
円でも家が一軒建つ位の大金ですから疋を円
と読み誤れば大変な騒ぎでありましょう。

因みに疋という名称は宮家ばかりでなく、
骨董商仲間でも使っておりました。私の父は
古美術鑑定をしておりましたから、昭和にな
っても改まった謝礼など金何疋と書いていた
のを覚えております。

(賛助会員)

祖先祭行わる

初代義太夫の命日に

初代竹本義太夫(法名釈道喜)の祥月命日
にあたる九月十日(土)、両国回向院にて、
祖先祭が行われました。

出席の予定で当日体調を崩された、田辺会
長、吉川名誉会長、駒登久理事等の欠席が残
念でしたが、実に久しぶりの駒若師初め四十
二名の義太夫関係者が参加しました。読経、
墓参につづく懇親会では、「朝重副会長の総
当り名司会」(会員の室屋氏による)で、列
席の方々からひとことづつお言葉を載しまし
たが、辛口の御意見続出……若手の勉強会
などで、知りあいのお出番が終ると帰ってしま
うことへの対策は?入場料のうち、自分はい
くらとれるか?衣装の着付けにも気を配るよ
うに。年間二十四公演のうち一回くらいは新
作を。マスコミもとりあげるような企画・話
題性を。一銭でもお金をとるのは大変なこと
後ろを向かれても文句はいえない、それだけ
の芸をもたねば。お客も勉強が必要。本牧亭
で座イスを使われると、後ろの人は見えない
……等々。

「理屈ぬきになつかしくて」と初めて参加
された国立劇場理事・鈴木博司氏の、国技館
も真・赤、氏の家も母校も戦火で焼けたとの
お話に、若い正会員は回向院周辺の歴史、回
向院は明暦の大火の犠牲者を葬った寺院であ
ることも改めて気付かされたようです。

十三年ぶり芸術祭参加!

10月20日本牧亭で「女流義太夫演奏会」

—女義後援会が全面的に支援—

昭和五十年秋に「義太夫名曲でつづる東海道」で芸術祭に参加して以来、義太夫協会としては実に十三年ぶりの芸術祭参加公演が実現することになりました。高野俊雄・池田弘一両氏が発起人となり、河野国声・松尾武市両氏の御賛同を得て「女流義太夫本牧公演後援会」が発足したのは昨年春のことでした。

以来、陰になり陽なたになりしながら「女義」を応援して下さっている後援会から芸術祭に参加したらとの御提案があり、公演部会・理事会を経て参加の意思が固まりました。かねて協会でも芸術祭参加を考えておりましたので、とんとん拍子に話が纏まったものです。ほかの参加公演との調整により、十月二十日、四時という毎月の定例公演とは若干異なる時間帯となりましたが、無事参加が認められ、只今準備が進められております。

昭和22年頃、竹本素女師が戦後の女義再興を図り、その後白木屋ホールなどで演奏会を継続。元来講談の席である本牧亭で、定席のなくなった女流義太夫が初めて興行したのが昭和24年のことで、竹本素女師一門が出演しました。25年には女流義太夫連盟が結成され、26年1月、二代目竹本綾之助師を中心に女流

義太夫本牧亭定期公演が発足致しました。以後、昭和47年の本牧亭改築工事まで、一月を除く毎月一日〜四日の演奏会が続き、本牧亭新築後は、毎月20・21日の定例公演となっております。

◇ ◇ ◇
* 昭和63年10月20日(木) 4時〜5時50分
* 上野広小路本牧亭 * 二千円

△ 番組▽
一、義経千本桜 竹本 朝重
鮮屋の段 鶴澤 寛八
一、ひらかな盛衰記 竹本 駒之助
神崎揚屋の段 鶴澤 重輝
鶴澤 悠美

今回の公演は「昭和26年以来今日に至る本牧亭の女流義太夫定期公演が果たした役割は? 女流義太夫の精鋭が、今その歴史の成果を問う」という参加目的で臨んでおります。会員の皆様、どうか御支援下さいませようよろしくお願い申し上げます。
尚、会場の都合でお席に限りがございますので、誠に勝手ながら、御予約賜りますようお願いいたします。また、演奏中の御入場は御遠慮下さいませよ

うお願い申し上げます。
最後になりましたが、参加公演のチラシ、絵ハガキ、当日のプログラムの印刷一切は、「女流義太夫本牧公演後援会」の御寄贈によるもので、デザイン並びにレイアウトは高野俊雄常任相談役が全て担当して下さいました。どうも有難うございました。

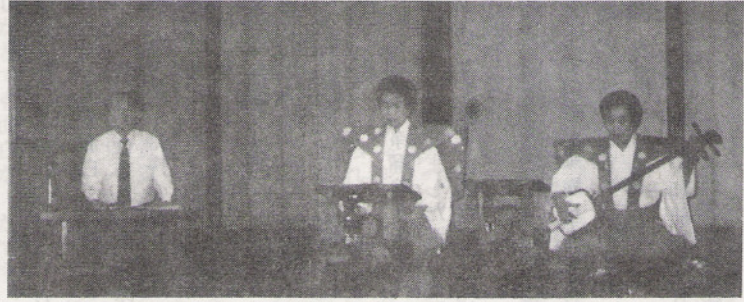
十月はあたくも若手月間

天地会と東西交流

久しぶりの芸術祭参加、緊張の1時間50分のは、気分を変えて若手の『天地会』へ! 参加公演終演後、1時間10分の間がございました。若手からの希望で実現したこの企画、いざ決まってみると事の重大さに戦々恐々、勉強のため、天地会(あべこべ会)は不可決とはいっぱいようです。
10月20日(木) 7時開演 一〇〇〇円

* * *
翌21日は、指導官庁・諸先生方・お客様よりかねてお勤めのあった『東西若手交流会』です。住造門下住蝶・寛八門下の寛輔・寛也(二人とも東京の義太夫教室出身)、雛代門下雛子・友恵門下友香、みな本牧公演初お目見得です。住友門下(孫の)友由貴は59年3月、本牧公演で「松王屋敷」を語ったことがありますので、4年ぶり。迎える東京も総出演で頑張ります。
10月21日(金) 6時開演 二〇〇〇円

教師のための義太夫講習会



講演 「泣きと笑いと言のハリ」

(写真提供 神田外語大学)

六月の「教師のための義太夫講習会」では義太夫協会相談役の池田弘一氏（学校法人佐野学園理事・神田外語大学助教授）に初めて講演をお願いしました。着付けの実演から始まり、駒之助・寛八による部分演奏を交えながら義太夫節の「泣きと笑い」を分析、最後に寛八の曲弾きまでサーブスするという盛沢山の講演で、緩急自在の氏の話術にすっかり魅了されたといった感の講習会でした。

たみ敷きの会場について

- (よい) 67%
 - *情緒があっても素敵ですね。*膝送りによって客数を増すことが出来る。*だって日本人だもの。私の部屋もたみ敷です！*雰囲気が良い。*くつろげる。*落ち着いて聴ける。*聴く者が肩を寄せあう感じで良い雰囲気。
- (悪い) 4%
 - *腰が疲れる。*足がしびれる
- (その他) 22%
 - *どっちもどっち。でも私にはつらいです。*座イスが欲しい。*周囲の人の私語が多く演奏を妨げるところが多い。
- (無解答) 7%

義太夫節の詞章について

- (旧仮名づかいがよい) 67%
 - *雰囲気があるから。*古典の内容を推察することも勉強になる。*原文の味が生きている。*時代にあわせて仮名を変えていたらキリがない。*当然！*演者も昔の発音でやっている。*そうじゃなきゃあ感じが出ないじゃないですか。
- (新仮名づかいがよい) 7%
 - *わかるから。
- (その他) 7%
 - *どちらでもよい。*旧仮名は伝承していきたい。新しく作るものなどは新仮名で。
- (無解答) 19%

「野崎村(段切)」のメロディをこれまでに

- (聞いたことがある) 41%
 - 内訳 | 30代 36% | 40代 9% | 50代 2% | 60代 9% | 70代 9% | 80代 9%
 - 不明 10%
- (聞いたことがない) 33%
 - 内訳 | 10代 11% | 20代 45% | 30代 22% | 40代 11% | 50代 11%
- (無回答) 26%

感想から

- *人の声がこれほど良く通るとは思ってもみませんでした。
- *初めてナマの義太夫節を聞かせて頂きました。人間の肉声の素晴らしさや三味線の音の美しさがビンビン心に響いてきました。目を閉じていてもはっきりと言葉がわかるので、日本語の発音が正確なんだなあとしみじみ思いました。
- あれだけ沢山の役を演じわけるなんて、すごい集中力ですね。
- *泣きや笑いの例を小刻みに演じられました。瞬間に感情を次々に投入される芸に頭が下がりました。
- 三味線の音の力強さ、効果が素晴らしかったです。講義は大変分かり易くポイントを押えた良いものでした。
- *義太夫を人形なしで聞くのは初めてですがそれだけだともっとわざとらしく感じるのではないかと思っていたら、とても情の深い、切々としたものが心に伝わってきたの

でファンになってしまいました。下町の粋なお客さんがいらっしやるのもうれしかったです。

*残念ですが、私の年令(二十四才)ではまだ良さがよくわかりません。次は人形浄瑠璃を見てみたいです。

*歌舞伎では何気なく聞いていたものが、このような演奏形態でじかに語られる時の魅力にひきつけられました。

はじめ聞き取りにくかった言葉も耳が慣れるとよくわかり楽しめました。

*池田氏のお話、大変面白く拝聴しました。

肩衣の由来、着付の仕方など興味深いものがありました。氏のお声の張りも長年のお稽古の賜物と感じ入りました。話術も巧みでいらっしやり、シャレなどの飛んでくる楽しいお話、有難うございました。

*十代・二十代のお若い皆さんが熱心に聴き入っている姿を拝見して大変頼もしくうれしく感じました。

*国語科教師として、浄瑠璃や義太夫に疎いのを残念に思っておりましたが、今回の企画でいくらかでも理解を深めることが出来たと思います。

演者はやりにくいことを良くやって下さいました。今まで何回か参加しましたが、解説者の説明が丁寧でもとても分かり易い、有難うございました。

(昭和63年6月20日
於上野広小路本牧亭)

協会の動き

昭和63年6月より
昭和63年9月まで

6月20日 教師のための義太夫講習会 講師 池田弘一相談役(5・6頁参照)

20日 義太夫節保存会昭和64年度事業計画書提出 於本牧亭

21日 理事会 於ほんもく

6月25日 資料・記録部会 於錦輝宅

6月29日 芸術祭参加申込書提出

7月10日 義太夫協会通常総会 昭和62年度事業報告・収支決算報告・63年度事業計画・予算案を審議、原案どおり可決した。 於文明堂

10日 公演部会 於文明堂

7月18日 昭和63年度文化庁芸術祭参加決定通知(1・4頁参照)

7月20日 芸団協新人育成事業助成金交付決定通知

7月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

7月22日 義太夫教室第41期(初級入門コース)閉講式。これまでに最も男性の比率が少なかった。(7頁参照)

於演舞場スペース・アルファ
於芸団協会議室

7月29日 公演部会 於芸団協会議室

7月30日・31日 「ニッポンの人形芝居展」八王子車人形公演に協力出演

8月15日 義太夫節保存会昭和63年度助成金交付決定通知(6月15日付) 於名古屋三越栄本店

8月20・21日 芸団協助成「女流若手勉強会」 於本牧亭

8月22・23・24日 女流後継者育成事業 妙心寺研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場稽古場

8月25・26日 女流後継者育成事業 海女研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場稽古場

9月5日 義太夫教室第41期中級(語りコース・三味線コース)開講 於国立劇場稽古場

9月10日 祖先祭(3頁参照) 於回向院

10日 公演部会 於回向院

9月11・13・15日 女流後継者育成事業 浜松小屋研修(豊竹呂大夫師指導) 於国立劇場稽古場

9月20日 義太夫協会会報第43号発行

昭和63年度第41期

義太夫教室

— アンケートから —

講義について

- 「音調基本」は、弥乃太夫先生の生の演奏（芝居のバックミュージックのさわり集という風な）は、情景が次々と変わって目に浮んでくるようなこたえられない嬉しさです。
- スライドが印象に残りました。今度大阪へ行くことがあったら、私もゆかりの地をたずねてみたいと思います。
- 「作品研究」では、実技でやる曲を中心に解説して頂けたらよかったです。
- 「レコード鑑賞は、貴重なものをダイジェストでかかせてもらえ、「フーン、以前はこんなだったのか」と思ったりしながら、何かとてもトクした気分でした。竹内先生はお話しがとても面白かったです。
- 「語りもの」の歴史は、市民大学の講義のようで、先生のお話する単語が出てくるプリントの二、三枚もあればと思いました。
- 本行と竹本の対比をテープで聞けたのは大変良かったです。
- 卒論でこの義太夫のことについて書こうと思いい竹内先生の勧めもあり、参加させて頂きました。四年になってから慌てて本を読んだりしましたが、この教室の講義がとて

も役に立ちました。

○いろいろな作品について内容の説明や言葉の意味等をもっと詳しく教えて頂きたいと思いました。

語りについて

- おしまず声を出して下さって、こういうものは直かにそばで感じて身につけるしかないと思うので、毎回何度も生の演技を見せかかせてもらえることが、とても貴重なことだと感じています。この授業料でこんなにして下さるということに「もったいない」と思ったり感謝したりしています。
- 難しかったです。声の出し方などがまるでわからなくて、ついていくのがせいっぱいでしたが、太夫さんの語りを聞いて「芸」というのはすごいものだ改めて認識いたしました。
- 邦楽というものに触れにくい状況で育つてますので、間のとり方や音程など、非常にとまどうことも多かったのですが、毎回とても楽しませて頂きました。
- 家では、あまり大きな音を出すのははばかれるし、時々妙な声が出たりして充分に練習は出来ないが、義太夫のことをほとんど何も知らない私が少しはなじめたと思えるのは進歩だと思っています。
- 三味線について
- 何ととってもあの太掉って素晴らしいと思います。あの響きとかあの音を出すのはいかに大変かというのを実技でひしひしと感じました。

○三味線をひきたくて講習を受けましたが、

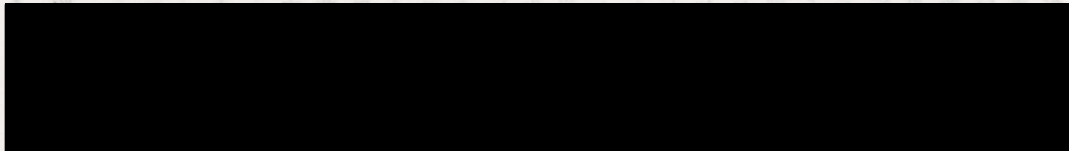
実技が一回しかなくて残念でした。もっと回数をふやしてほしい。あちこちに義太夫三味線を教えてくれる教室があればいいのとつくづく思います。

○まがりなりにも「ヲクリ」がひけて大感激。

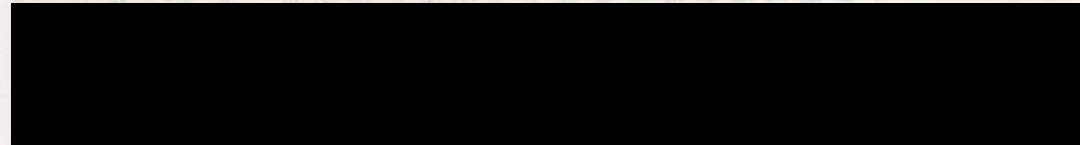
全般的なこと

- 戦後教育を受けた私には、義太夫の講義、実技、三味線とあらゆるものが新鮮な感動でした。そして正座の苦しさも、また……。
- 大好きな歌舞伎を理解できればと思いい学ばせて頂きました。お陰様で、今まで義太夫は難しいもの、わからないものと思っていました。ほんの少しですけれど聞く耳を持つことが出来たような気がします。
- 僕のようなズブの素人でもついて行けるかなという不安がありました。各先生方が熱心かつ親切に御教示下されるのに本当に感激致しました。
- 教材用にいただいたテープですが、三味線のみ「カラオケ」のようなものも入れていただければ自宅で練習するのに役立ったと思います。声が入っていると、自分の音程がわからずじまいなので。
- 本牧亭の公演鑑賞があるのが嬉しいです。講習を受けて歌舞伎を見る時の耳が変りました。本牧亭も文楽も通いたいと思います。
- 大変有意義な二ヶ月でした。若い方々が義太夫に感心を持っていることが解って安心しました。

新入会員御紹介



住所等変更



〈寄贈〉

新井 一男様 40円切手 50枚
 照山多香子様 三味線・バチ・駒 一式
 高野 俊雄様 桜時雨 和とじ本
 花乃萬燈 和とじ本
 芸術祭参加公演チラシ・
 絵はがき・プログラム等
 印刷 一式
 佐々木明郎様 (祖先祭) ウィスキー

〈寄付〉 63年4月〜9月

佐野 隆治様 一〇〇,〇〇〇円
 堀 田鶴子様 五〇,〇〇〇円
 安部 重蔵様 一〇,〇〇〇円
 池田 弘一様(祖先祭) 一〇,〇〇〇円
 加藤 清政様 一〇,〇〇〇円
 和田 博様(祖先祭) 一〇,〇〇〇円
 高野 俊雄様(祖先祭) 五〇,〇〇〇円
 松橋 正文様 五〇,〇〇〇円
 野田 勝也様 三〇,〇〇〇円
 豊竹登茂栄様 一〇,〇〇〇円

小言は言うべし酒は買うべし

―女義後援会63年度途中経過―

池田 弘 一様 一〇〇,〇〇〇円
 高野 俊 雄様 一〇〇,〇〇〇円
 竹本駒之助御連中様有志 五〇,〇〇〇円
 松井 一 男様 三〇,〇〇〇円

(63年9月現在)

〈お見舞〉

義太夫節保存会会長・義太夫協会前副会長
 豊澤仙廣師は、目下自宅療養中ですが、芸術
 祭参加の御報告をしたところ「頑張って。良
 い知らせを持ってまた来て頂戴。会員の皆様
 によるしく」との御伝言です。

〈短信〉

大阪住吉区在住の竹本染登師(94才)は、芸
 歴80周年を記念して、9月25日「竹本染登淨
 瑠璃敬老公演会」(住吉名勝保存会主催・読
 売ファミリア後援)を開き、「野崎村」を語
 ります。いまなお元気に舞台上に上がる染登師
 の姿を励みにもらおうと、地元のお年寄
 りを招待するそうです。

(読売ファミリア大阪市内南版より)

編集後記

また字ばかり……と
 叱りが聞えてきそうです。
 前号に突如として登場したタヌキ君、別に評
 判が悪い訳ではなく、単にスペースの関係
 で43号ではお目見得が叶いませんでした。代
 わりに(?)天地会のプログラムに顔を出し
 ていますのでよろしく。

「お詫びと訂正」

42号、猿三郎師の芸談になまじな編集部・
 注をつけたため、余計おかしくなってしまい
 申し訳ありませんでした。協会の動き、62年
 12月24日 定例理事会 於芸団協会議室が落
 ちておりました。お詫び申し上げます。